

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.	I-2-1
-----	-------

基本方針	I 人とつながる		
施策	I-2 共にまちづくりを進める人材の育成	参考：方向性	2 シチズンシップに富んだ人材の育成と連携に向けた取組み

取組項目	「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」の推進によるシチズンシップに富んだ人材の養成					
現状等	<p>静岡市のまちづくりの目的である「市民自治によるまちづくり」の実現に向け、「まちづくりは人づくり」という考えのもと、平成28年度に庁内各課で実施していた人材養成事業（10講座）をひとつに束ね、一体的に推進する枠組みとして「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」を開校しました。開校からの7年間（H28～R4）では、講座数が10講座から26講座に拡大、令和元年度には高校生を対象としたプレ課程「高校生まちづくりスクール」2講座を新設、令和3年度末までの修了生数が延べ1,985人となるなど、着実に静岡市のまちづくりを担うシチズンシップに富んだ人材の養成をすることができています。</p> <p>また、講座の受講生と修了生を対象に、交流会「ここにわ」を年1回開催し、交流や仲間づくりの場の提供にも取り組んできました。</p>					
取組概要 (前期計画)	<p>〔取組①〕「総合課程」「専門課程」「プレ課程」の実施 講座カルテでの分析やシチズンシップ部会（講座所管課等で構成）により「こ・こ・に」各講座の質の向上に取組み、シチズンシップに富んだ人材の養成を充実していきます。</p> <p>〔取組②〕修了生へのフォローアップの実施 修了生を活動につなげる受講後のフォローアップとして、交流会、情報提供、活動相談、まちづくりマスター認定などに取組み強化していきます。</p> <p>〔取組③〕デジタル活用による多様な学習形態の導入促進 オンライン講座やオンデマンド配信などICTを活用した「デジタル」とワークショップやフィールドワークなど体験の持つ価値「リアル」を合わせ、より効果的で多様な学習形態の導入促進に取組みます。</p> <p>〔取組④〕社会人の学び直しへの取組（リカレント教育、リスキリング） 絶えず変化する予測困難な社会へ適応していくために個人がアップデートするための学びを支援するなど「人生100年時代」に必要な取組を検討し実施していきます。</p>					
取組内容 (計画・実績)	年度	R5	R6	R7	R8	R9～12の取組
	計画	① ◎「総合課程」「専門課程」「プレ課程」の実施 ② ◎修了生へのフォローアップの実施 ③ ◎デジタル活用による多様な学習形態の導入促進 ④ ◎社会人の学び直しへの取組	① →継続 ② →継続 ③ →継続 ④ →継続	① →継続 ② →継続 ③ →継続 ④ →継続	① →継続 ② →継続 ③ →継続 ④ →継続	継続実施
実績						
凡例	△調査・検討、○一部実施、◎実施、→継続、●実績なし、×中止					
効果	・シチズンシップに富んだ市民が増え、学んだ成果を活かし、人と人との相互のつながりや市との協働により、まちづくりに参画するようになる。					
指標	年度	R5	R6	R7	R8	大綱最終年度(R12年度)目標値
	計画	2,695人	3,050人	3,405人	3,760人	
総合課程、専門課程、プレ課程における延べ修了生数	実績					
総合課程、専門課程、プレ課程の修了生のうち、地域や社会のために活動したい人の割合	計画	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	
	実績					
総合課程及び専門課程の修了生のうち、受講後1年間の間に地域や社会のために活動した人の割合	計画	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%	
	実績					
局名	市民局	所管課		生涯学習推進課		
				第3次後期実施計画個票No. (継続取組のみ)	I-1-1-1	

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.	I-2-2
-----	-------

基本方針	I 人とつながる		
施策	I-2 共にまちづくりを進める人材の育成	参考： 方向性	3 積極的な情報発信

取組項目	静岡市プラモデル化計画の推進によるプラモデルへの誇りの構築（ものづくりキャリア教育等）					
現状等	戦略産業であるホビー産業の単なる支援にとどまることなく、ホビー産業を代表する模型（プラモデル）をシティプロモーション及び街の活性化や古来より本市に根付く「ものづくり精神」を継承する人材育成などの総合的なまちづくりに活用し、将来にわたって本市の存在感を高めていくため、「静岡市プラモデル化計画」を発表するとともに、新たに産業振興課内に専属従事できるようプラモデル振興係を新設しました。					
取組概要 (前期計画)	総合的なまちづくりにおいては、行政だけの取組みとせず、この取り組みを理解し、後押しや協力していただける市民を増やし、官民一体となって推進する取組みが必要不可欠となります。 そのために、プラモニュメントの設置などの「体感できる環境づくり」、ものづくりプラモデル大学などの「ともに発信する人財づくり」、プラモデルと他業種のコラボなどの「体験できる場づくり」を3つの柱として、静岡市プラモデル化計画推進事業を推進し、「模型の世界首都」への誇りを持ち、自律的に模型を発信する市民の数を増やすための取り組みを図っていきます。					
取組内容 (計画・実績)	年度	R5	R6	R7	R8	R9~12の取組
	計画	静岡市プラモデル化計画推進事業の推進 (プラモニュメントものづくりプラモデル大学 など)	→継続	→継続	→継続	必要に応じて記載
実績	記載不要	記載不要	記載不要	記載不要		
凡 例	△調査・検討、○一部実施、◎実施、→継続、●実績なし、×中止					
効果	地域資源であるプラモデルを官民一体となって磨き上げ、「静岡市プラモデル化計画」を推進する担い手を育てることにより、自発的な取り組みが市内全域で展開され、「模型の世界首都」として、本市を将来にわたって活力ある都市へと高めていくことが図られる。					
指 標	年度	R5	R6	R7	R8	大綱最終年度 (R12年度) 目標値
「模型の世界首都」への誇りを持ち、自律的にプラモデルを発信する市民の数 (令和3年度：14.9%) 推計値	計画	17%	19%	21%	23%	30%
	実績					
局 名	経済局	所管課		産業振興課		
		第3次後期実施計画個票No. (継続取組のみ)			—	

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.	I-2-3
-----	-------

基本方針	I 人とつながる		
施策	I-2 共にまちづくりを進める人材の育成	参考： 方向性	2 シチズンシップに富んだ人材の育成と連携に向けた取組み

取組項目	地域コミュニティの活動に積極的に関わる区民の育成					
現状等	第3次行財政改革推進大綱実施計画において、より区民が主体となり事業運営を行えるよう、「地域の人材育成事業」の修了者である「駿援隊」の組織化を目指していたところ、修了生が地域コミュニティにおける活動へ参画したり、魅力づくり事業へ協力するなど徐々に実績を残してきました。今後も「駿援隊」修了生が継続して活動できる状況を整備することが必要です。（「駿援隊」は、「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」の一環として実施しているものです。）					
取組概要 (前期計画)	地域の人材育成事業の修了者である「駿援隊」の組織化を推進するため、事業終了後も引き続き修了生同士が繋がる場としてフォローアップ会議を開催しています。日ごろの活動状況や課題など情報共有してもらうことで繋がりを深めていただくなど修了生のネットワーク化を支援し、地域コミュニティの活動に積極的に関わる人々を育成します。					
取組内容 (計画・実績)	年度	R5	R6	R7	R8	R9~12の取組
	計画	◎①「駿援隊」のフォローアップ ◎②「駿援隊」のネットワーク化支援	→継続 →継続	→継続 →継続	→継続 →継続	継続実施
	実績					
凡 例	△調査・検討、○一部実施、◎実施、→継続、●実績なし、×中止					
効果	自治会、町内会等の地域コミュニティの活性化が図られるとともに、地域間の横のつながりによる情報共有及び人的ネットワークが構築されます。					
指 標	年度	R5	R6	R7	R8	大綱最終年度 (R12年度) 目標値
①フォローアップ会議等の開催回数	計画	3回	3回	3回	3回	3回
	実績					
②ネットワーク参加者数	計画	30人	33人	36人	39人	51人
	実績					
局 名	駿河区役所	所管課		駿河区役所地域総務課		
		第3次後期実施計画個票No. (継続取組のみ)			I-1-1-8	

第4次行政改革前期実施計画個票

No.	I-2-4
基本方針	I 人とつながる
施策	I-2 共にまちづくりを進める人材の育成
参考：方向性	2 シチズンシップに富んだ人材の育成と連携に向けた取組み

取組項目	大学と連携した生涯学習による社会人の学び直しの推進					
現状等	<p>6大学（静岡大学、静岡県立大学、東海大学、静岡英和学院大学、常葉大学、静岡理科大学）とともに、「静岡市・大学連携生涯学習会議」を開催し、生涯学習事業の推進や社会人の学び直し（リカレント教育）などについて協議、情報交換することを通じ、本市に必要な大学の持つ知的資源を活用した学習のあり方を研究するとともに、生涯学習施設とも連携して各種講座などを実施しています。</p> <p>《連携内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡市・大学連携生涯学習会議の実施</li> <li>・6大学が1講座ずつリレー形式で全6回の連続講座を開催する「市民大学リレー講座」の実施</li> <li>・大学と生涯学習施設が連携して各種講座を実施</li> <li>・大学で実施されている社会人の学び直し（リカレント教育）に関する市ホームページでの情報発信</li> </ul>					
取組概要（前期計画）	<p>静岡市・大学連携生涯学習会議を実施し、6大学との連携強化を図ることで、大学の持つ知的資源を活用した学習機会の提供や大学で実施されている「社会人の学び直し（リカレント教育）」に関する情報発信等に取組み、市民の絶えず変化する予測困難な社会に適応していくために個人がアップデートするための学びを支援します。</p> <p>また、市民大学リレー講座は、会場とオンライン配信を併用したハイブリット方式で実施し、デジタルを活用した多様な学び形態の導入を図ります。</p> <p>取組① 静岡市・大学連携生涯学習会議の継続による連携強化                  取組② 市民大学リレー講座の実施                  取組③ 大学と生涯学習施設との共催公開講座の実施                  取組④ 社会人の学び直しに関する情報発信                  取組⑤ デジタルを活用した多様な学び形態の導入</p>					
取組内容（計画・実績）	年度	R5	R6	R7	R8	R9～12の取組
	計画	①◎静岡市・大学連携生涯学習会議の開催 ②◎市民大学リレー講座の実施 ③◎生涯学習施設と大学の連携講座の実施 ④◎社会人の学び直しに関する情報発信 ⑤◎市民大学リレー講座のハイブリット方式での実施	①→継続 ②→継続 ③→継続 ④→継続 ⑤→継続	①→継続 ②→継続 ③→継続 ④→継続	①→継続 ②→継続 ③→継続 ④→継続	継続実施
実績						
凡例	△調査・検討、○一部実施、◎実施、→継続、●実績なし、×中止					
効果	大学との連携により、市民に専門的且つ高度な学びとして、社会人の学び直し（リカレント教育）の機会を提供できる。					
指標	年度	R5	R6	R7	R8	大綱最終年度（R12年度）目標値
静岡市・大学連携生涯学習会議の開催回数	計画	2回	2回	2回	2回	
	実績					
静岡市・大学連携生涯学習会議の枠組みにより開催する市民大学リレー講座及び生涯学習施設と大学との共催公開講座の開催回数	計画	35回	35回	35回	35回	
	実績					
局名	市民局	所管課		生涯学習推進課		
		第3次後期実施計画個票No.（継続取組のみ）		—		

第4次行財政改革前期実施計画個票

No.	I-2-5
-----	-------

基本方針	I 人とつながる		
施策	I-2 共にまちづくりを進める人材の育成	参考： 方向性	2 シチズンシップに富んだ人材の育成と連携に向けた取組み

取組項目	新幹線通学費貸与事業による若者の定住促進					
現状等	<p>若者が市内で生活し、市民及び地域社会と関わる機会を増やすことにより、若者の定住の促進及び地域社会を担う人材の確保を図り、もって活力ある地域社会の実現に資することを目的に、遠距離にある大学等への通学に要する資金を予算の範囲内で貸与しています。</p> <p>また、本事業利用者のうち、定住した者へのインセンティブとして、静岡市の市民税の所得割を完納した場合に、貸与金の返還を免除しています。</p> <p>静岡県の平均が37%とされている地元就職率は、本事業利用者においては60%以上を保っており、事業の効果が表れているものと考えられます。</p> <p>今後もさらなる利用者増加のため、効果的な広報を実施するとともに、地元就職率向上のため、就職情報をタイミングよく提供していきます。</p> <p>○新規申請者数：85人(R3年度末)                  ※新型コロナウイルス対策の影響等により、新規申請者数が一時落ち込みました。                  ○返還手続きを行った卒業者の地元就職率：62.3%                  ○平均地元就職率：37%（参考：R3年度しずおか産業就職連絡会資料より）</p>					
取組概要 (前期計画)	本市に居住し、県外の大学等へ新幹線で通学する30歳未満の学生を対象に、新幹線定期代の一部を無利子で貸与します。					
取組内容 (計画・実績)	年度	R5	R6	R7	R8	R9~12の取組
	計画	⇒事業実施	⇒事業実施	⇒事業実施	⇒事業実施	⇒事業実施
	実績					
凡 例	△調査・検討、○一部実施、◎実施、→継続、●実績なし、×中止					
効果	新幹線通学費の一部を貸与することで、若者の地元定着を促し、地域社会や産業等を支える人材を確保することに寄与します。					
指 標	年度	R5	R6	R7	R8	大綱最終年度 (R12年度) 目標値
返還手続きを行った卒業者の 地元就職率 (R3年度 62.3%)	計画	65%	65%	65%	65%	65%
	実績					
局 名	企画局		所管課	企画課		
				第3次後期実施計画個票No. (継続取組のみ)		—